

自然からの恩恵と 私たちのすべきことについて

アベ シンゴ
安部 榎悟

公共事業としての
生態系サービス業

生態系サービスの保全活動を
地域全体で支えられるようにする
「構想」

生態系サービスとは

なんぞや？

生態系サービスとは**恩恵**のこと

- 自然が私たちにもたらしてくれる恩恵を「生態系サービス」と呼んでいます。
- 木材や水、食料が手に入ること。酸素をくれること。観光地や都市部、農地、工業地など。川の浸食作用を抑えて、水の浄化や土壌の生成、生態系の食物連鎖で自然を再生する。など

生態系サービス

文化的サービス

調節サービス

供給サービス

基盤サービス

タダで得られるサービスなんかじゃないのに
なんの対価も払っていない現状

ちよこつと昔話？

木を切って売る人と
木を買って家建てたり薪にしたりする人
がいた。

森林の管理につながっていただろうなあ。

行政機関

地域

企業

しくみ

大学

専門家

①～②生態系サービスへの 対価の支払い方

- ①生態系サービスマツ
ピング
- ②保全活動の義務化政
策

①生態系サービスマッピング

- その地域の住民に、どんな生態系サービスを受けていて、そのサービスが今どんな状況にあるのかをマッピングしてもらいます。

②保全活動の義務化政策

- 行政機関には、住民に対して、竹や間伐材の利用か、それらの伐採活動への参加、あるいは資金提供など、地域の生態系保全のために何らかの形で貢献することを義務付けてもらいます。

やってもらわないと義務にしても意味がない

①は一部の生態系が崩れてきている地域にだけ最初は義務化させて、人員を派遣したりすることにする

②はできることをやってねとも言えないので、その土地にあった貢献方法を考える必要がある

例えば、

東京で保全活動をするよりも、利用消費や資金提供をしてもらった方が良かったり、兵庫で資金提供するよりも、利用消費や保全活動をした方が良かったりするのと同じです。

③～⑤保全活動の支援

- ③ 公共施設へのバイオマスボイラー導入
- ④ 住民や企業への設備導入・貸出
- ⑤ 技術を持っている企業を宣伝・応援

③ 公共施設へのバイオマスボイラの導入

- これは、単に新技術を導入するというよりも、都市などで竹や間伐材の使用先を作り、どのようにして消費先を作っていくのかを考えるときの事業モデルを作るという思惑があります。

④ 住民や企業への設備の導入支援・貸出

- 保全活動を支援して、参加者の負担を軽減する事業です。

⑤ 技術を持っている企業を宣伝・応援

- 技術発表や事業プランの提示、行政機関を通して企業同士の横のつながりを持つなど
- 見本市や工業技術センターなどがあるが、そういう新技術や研究者とつながりを持つ手法になる存在が、全然表向きになっていない。生態系サービスマッピングと同様に、見本市などのマッピングも作っていくこともいいんじゃないか。

⑥～⑦里山への観光客の 支払い方

⑥ 動植物の写真を撮って
共有

⑦ ゴミ拾い・枝拾いに参
加

⑥ 動植物の写真を撮って共有

- 生態調査を随時行えるというメリットの提示、珍しい動植物の発見には賞を与えて偏りを調整する、スタンプやロゴマークなどのイラストを人気絵師に頼んで参加しようとする人を増やすなどすれば、調整できるとも思える。

⑦ ゴミ拾い・枝拾いに参加

- 自然の文化的サービスを保護する活動に参加してもらうということになる。

まとめ

- ①～②は対価の支払い
- ③～⑤は保全活動の支援
- ⑥～⑦は里山への観光客の支払い方

この話を考えている間は脱炭素と土地利用と産業をまとめて解決に運んでいけたらなあ、欲張りなことを考えながら始まっています。

理想的な構想を目指して考えを広げていきましたが、費用や企業の具体例を考えられていない、一つ一つの事業への解像度が低いことで詰めが甘い提案になっているとは思っています。

これは問題を解決していく前に理想形を実現するまでの工程を明確にしたかっただけで、このあとの部分は正直言って1人でやりたいとはおもえないことが原因です。

だれかたすけてえ
えー!!!